

地球環境基金
第1回オンラインセミナー



コロナ時代の 市民活動・コミュニティ活動 (基礎編)

～「リアル」と「オンライン」のハイブリッド運営を目指して～



独立行政法人 環境再生保全機構

講師プロフィール 五井 利明 氏



一般社団法人JIMI-Lab 代表理事
NPO法人CRファクトリー 副理事長・事業部長
認定NPO法人かものはしプロジェクト
日本事業部 マネージャー
株式会社ウィル・シード 研修講師

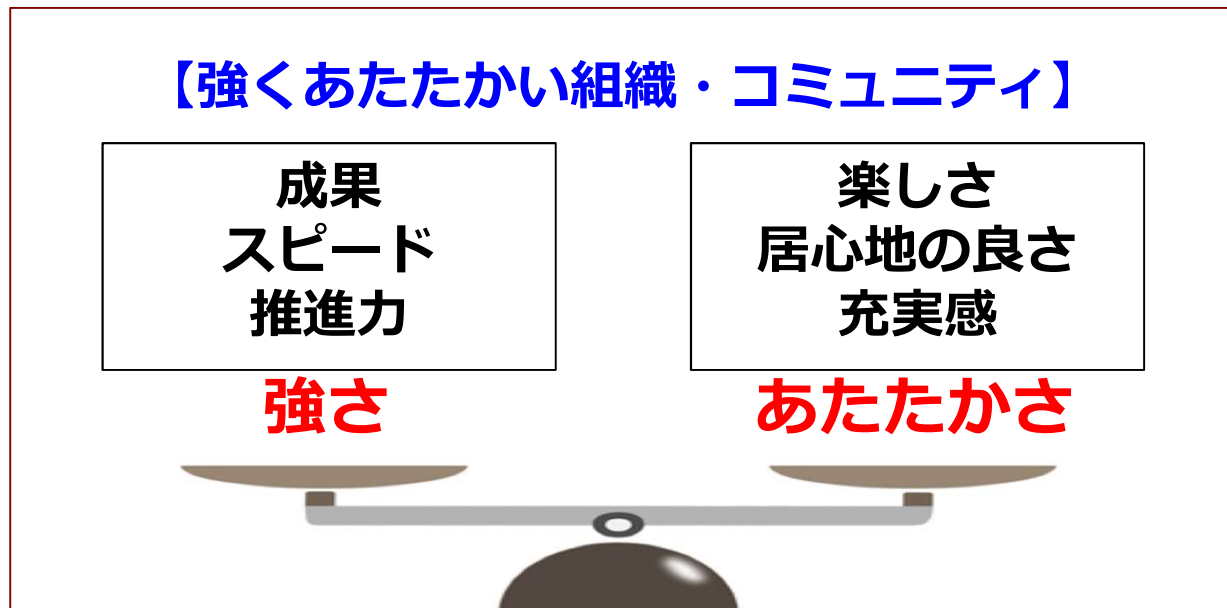
妻の夫、2人の娘の父

趣味：ラジオ、筋トレ、仕事

「共に生きたい」をつくる



「ボランティアな人々」で構成されるチームで、
「活気あふれた継続的な運営」を実現しながら、
「高い成果」と「人が生き活きと幸せになる組織」
の両方を創り出すことが私たちのテーマです。





コロナ時代の 市民活動・コミュニティ活動

～「リアル」と「オンライン」のハイブリッド運営を目指して～

Withコロナ時代の団体運営

リアルイベントやミーティングができない

新型コロナウイルスの感染拡大により、世の中は3密（密閉・密集・密接）を避けなければいけない状況となり、**イベント・場づくり・交流**などを主活動とする多くの市民活動・コミュニティ活動にとっては、ものすごくやりづらい状況となりました。



3つの**密**を避けましょう!

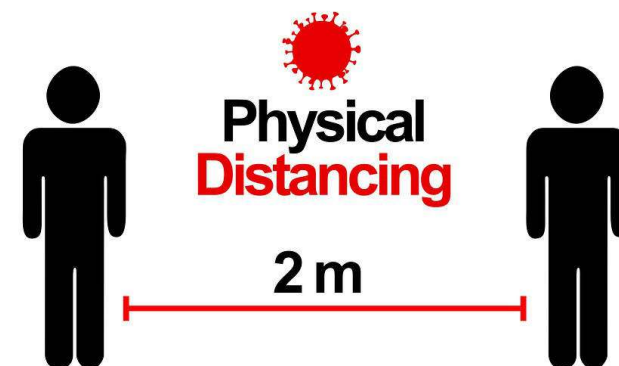
①換気の悪い
密閉空間



②多数が集まる
密集場所



③間近で会話や
発声をする
密接場面



コロナ時代に起きていること

- ①リアルな**イベント**が開催しづらくなった
- ②リアルな**ミーティング**がやりにくくなった
- ③高齢者の**感染**に気をつける必要がある
- ④リアルな場をつくることへの**認識の差**
- ⑤**IT・オンライン**の得意・苦手の差



私たちの緊急調査アンケートで以下の項目が浮かび上がった

- 日常会話・普段のなにげない雑談が減っている
- 対話・議論・ディスカッションが深まらない
- 関わりの差が生まれている

普段、無意識に獲得し合っていた非言語の情報が減ったことによって、前提にズレが生じたり、相手の意図・考えが理解しづらくなる。

それが仕事の成果や進め方に悪影響を及ぼしはじめる。
人間関係がギクシャクしたり、ストレスを感じる場面も。
雑談やランチで得ていた「気晴らし」「ぬくもり」も減る。

ワークショップから聞こえてきた声

オンラインへの拒絶感や格差があるので、対面だけでも、オンラインだけでもできない。

認識の差がある。
「集まればいいんだよ」という人と、
「集まるのはこわい」という人と。

まちづくり活動のグループには「どう続ける？」
「やめようか？」という声が出始めている。

イベントのメインは交流や雑談だと思っているが、それがオンラインだとかなり難しい。

悩みが言いづらい環境になっている。悩みや不満が見えなくてつかみづらくなっている。

モチベーションや帰属意識が低下している。



オンライン時代は「今まで自然と無意識に共有・担保されていたもの」に目を向けて、それを意図的につくることが重要

1.前提・背景のすり合わせ

その人が考えていることや疑問・違和感を感じていること。
今どんな気持ちで、仕事以外のことはどんな状況なのか。

2.関係性をあたためること

忙しく孤立しやすい構造のリモートワーク時代には、
支えとやすらぎの人間関係が重要になる。成果・スピード
と良い関係性・ケアのバランスを取ることがマネジメント。

3.気持ち・弱さを共有する

その人の気持ち・感情を共有できるチーム。

「人間性を仕事に呼び込む」 「心理的安全性」

■ 少人数・1対1・個別

Zoomなどのオンラインツールは大人数でのコミュニケーションに向いていない。少人数をいかにつくるかが鍵。少人数や個別で「温度」や「関係性」をあたためていく。

■ 短い時間で頻度高く

移動しなくて済むオンラインミーティングは、隙間時間や短い時間での実施がやりやすい。30分や45分や1時間の短めのミーティングや面談を「頻度高く」やるのが良い。

■ オンライン化支援・ITツールの手ほどき

通信環境（WiFi）と端末（パソコン・タブレット・スマホ）の整備支援を進めると共に、ITツールへの抵抗感がある方への「個別でリアルな手ほどき」がポイントになる。

これからの活動をどう進めるか

これからの活動をどう進めるか

1.オンライン化をどう進めるか

2.リアルな場をどうつくるか

3.リアルとオンラインのハイブリッド（併用）



オンライン化をどう進めるか

オンラインでのコミュニケーションやケアや会合ができる環境づくり。オンラインでもつながれるための仕掛けづくり。

- ①WiFi・タブレットなどオンライン環境の整備
- ②オンラインでのミーティング・面談実施
- ③オンラインでのイベント・場づくり開催



これからの活動をどう進めるか



1. オンライン化をどう進めるか

2. リアルな場をどうつくるか

3. リアルとオンラインのハイブリッド（併用）



リアルな場をどうつくるか

感染対策を徹底した上で、信頼感・安心感のあるリアルな場づくりをどこまでできるか。工夫してリアルもつくりたい。

- 換気
- 消毒液
- マスク着用
- 検温
- フェイスシールド
- マウスシールド
- アクリルパーテーション
- 参加者名簿



これからの活動をどう進めるか

1.オンライン化をどう進めるか

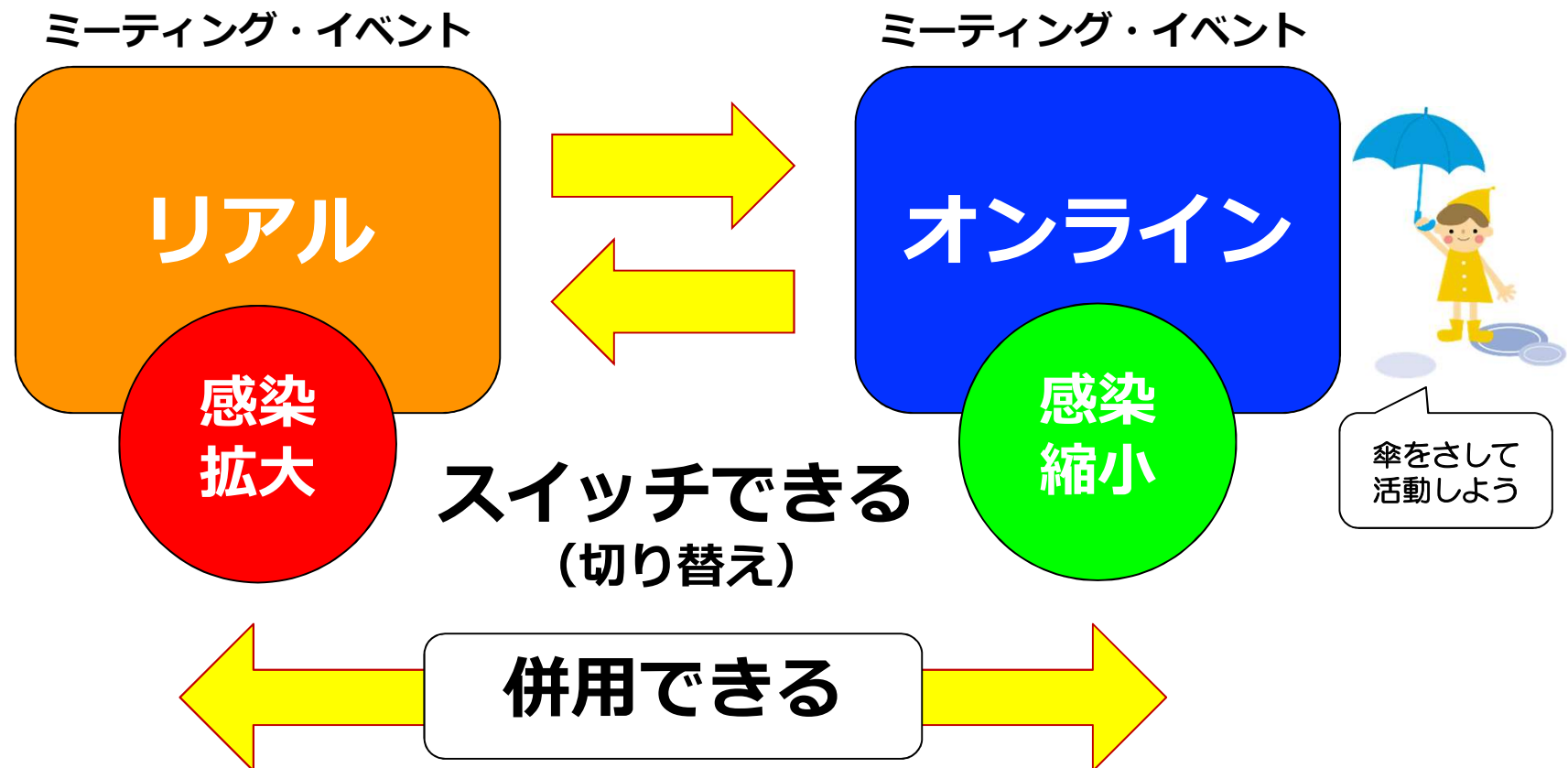
2.リアルな場をどうつくるか

3.リアルとオンラインのハイブリッド（併用）



これからはハイブリッド（併用）運営

Withコロナ時代は「リアル」と「オンライン」の両方を併用する「ハイブリッド運営」を目指す。



1.かたちを変えても続けること（進化する）

情熱・想い・心のエネルギーがあれば、今も活動は続いているし、これからも活動は続く。柔軟・進化の姿勢。

2.自分たちの根本を見つめ直す

形が変わっても残る「自分たちの使命・価値は何か？」。問題意識、社会的役割、強み、願い、など、そこが深くわかれば、いくらでもやり方は見つけていけるはず。

3.中長期的な視野に立つこと

今は不安と混乱の最中。2年後にはAfterコロナがやってきて、ミーティングもイベントも懇親会もできる。人間と社会にとっての「コミュニティ」と「つながり」の重要性は変わらない。それを創り出せる市民活動・コミュニティ活動には価値がある。がんばろう。

本日はありがとうございました

**みなさんのコミュニティの発展を
心より応援しております**





独立行政法人 **環境再生保全機構**



独立行政法人 **環境再生保全機構**